

会報

第117号

平成30年7月20日

新潟県特別支援教育研究会事務局

新潟市中央区白山浦1-207-3

新潟市立鏡淵小学校内

Tel 025 (265) 4111

Fax 025 (265) 4112

発行: 文久堂

特別支援教育の 専門性の向上を目指して



新潟県特別支援教育研究会

会長 江口 滋

今年度、新潟県特別支援教育研究会会長を仰せつかりました。特別支援教育研究会の円滑な運営に力を尽くしてまいります。よろしくお願いたします。

さて、学校基本調査によりますと、義務教育段階の児童生徒は平成二十九年度で約九百八十八万人となり、二十八年度に引き続いて一千万人を下回り減少傾向にあります。このような状況のなか、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導を受ける児童生徒の義務教育段階に占める比率は年々増え続け、通級指導が制度化された平成五年の〇・九七パーセントから、平成二十八年度には、三・八八パーセントに増加しているということです。全国で毎年一万五千人から二万人ずつ増えているという状況であり、新潟県内の義務教育段階の学校でも同様の傾向にあることは周知のとおりです。

今年度は、昨年度公示された新学習指導要領の全面実施に向けた準備期間にあたります。幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学

習指導要領、高等学校学習指導要領では、特別支援教育等に関する記述が明確に示され充実しています。

また、高等学校においては、今年度から通級指導が制度化され、当県の高等学校でも通級指導が始まりました。これらは、連続性のある多様な学びの場の整備につながり、共生社会に向けた資質・能力の育成に向かうものと思われ、また、各々学校では、特別支援教育に携わる先生方が教職員や保護者に向けて特別支援教育に関する様々な情報を提供し、理解を得ていると聞いています。私が勤務する学校でも、特別支援教育コーディネーターが、およそひと月に一回の割合で職員及び保護者を対象に「特別支援教育だより」を発行しています。今年度は、当校の特別支援教育の重点事項を中心に、理念や具体的な取組を記して発信する予定です。特別支援教育の動向や各校の具体的な取組を広く発信することは、特別支援教育に対する理解をより確かなものにすると共に、共生社会の実現に向けた取組の一助になるものと思えます。

私たちは障がいのある子どもに対して適切な指導や支援を行う必要があります。私たちには専門性の向上が求められています。また、特別支援教育は、すべての学校で実施されるものでもあります。すべての教員が特別支援教育に関する一定の知識・理解・技能を高めつつ、多くの人に特別支援教育の基本理念や指導の実践を伝えることを通じて、学校と社会の連携・協働も進めていきたいものです。

今年度も、県特別支援教育研究会では教員の専門性の向上を目指し、各地区での研修会や障がい別の研修会を開催します。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いたします。

平成30年度 主な行事予定

5月

特別支援学級・通級指導教室担当者名簿発刊

県特支研三役会(30日)

県特支研第一回理事・評議員会(30日)

6月

各研究部研修予定集約

7月

会報117号発刊

言語・難聴部研修会(25日)

知的障害部研修会(31日)

8月

全特連関プロ大会群馬大会(6日)

自閉症・情緒障害部研修会(9日)

上越地区特別支援教育研究大会

上越南部大会(10日)

10月

全特連全国大会名古屋大会(25・26日)

11月

下越特別支援教育研究大会

新潟市大会(21日)

中越地区特別支援教育研究大会

長岡大会(28日)

2月

県特支研第二回理事会(上旬)

会報118号発行

国や新潟県の特別支援教育の動向



県教育庁義務教育課
特別支援教育推進室

室長 大竹 嘉則

一 国や県の計画について

会員の皆様には、本県の特別支援教育の推進にご尽力されていますことに敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

さて、国の動向をみてみますと、今年の六月に「第三期教育振興基本計画」(計画期間は、平成三十年度から三十四年度)が、閣議決定されました。この計画では、一人一人の教育的ニーズに応じた、多様で柔軟な仕組みの整備を行うこととしています。そのため、基礎的環境の整備や合理的配慮の提供により、適切な指導や必要な支援を行うこと、障害者理解に関する学習や交流及び共同学習を一層推進すること、校内支援体制を構築すること等が示されています。県においては、昨年度、新潟県総合計画「にいがた未来創造プラン」(計画期間は、平成二十九年度から平成三十六年度)を策定しました。「誰もが等しく豊かな教育を受けられる環境の整備」の中で、特別な教育的ニーズに的確に対応するため、多様な学びの場を整備するとともに、早期から関係機関と連携しながら、「個別の教育支援計画」に基づき、一人一人に適した指導や支援を提供していくとしています。

また、改正した発達障害者支援法を踏まえ、県教育庁義務教育課と、県福祉保健部障害福祉

課が、「新潟県発達障害者支援体制整備に関する基本方針及びアクションプラン」(計画期間は、平成三十年度から平成三十四年度)を策定しました。基本方針は二点掲げています。一点目は、身近な地域で適切な支援を行うための支援体制の構築、二点目は、ライフステージに応じた支援体制の構築です。

これら二点を推進するため、いくつかの取組の柱が示されています。そのうち、就学期における支援体制については、学校における個別の教育支援計画と、福祉における個別支援計画の連携を図りながら、切れ目ない支援を行うこと、社会的・職業的自立を図るため早期からキャリア教育・職業教育の充実に向けた取組を行うこととしていきます。

次に、県の取組の概況等を述べさせていただきます。

二 多様な学びの場の整備と、ニーズに応じた指導・支援の工夫について

本年度、県立川西高等特別支援学校が、分校から本校化しました。今後、生徒の希望の実現に向けた、キャリア教育・職業教育の一層の充実が期待される所です。

また、特別支援学級及び通級指導教室で学ぶ児童生徒数が増加しており、全県の視野から、計画的に整備を行っている所です。近年、特別な教育的ニーズの多様化とともに各学級、各教室は、学習活動や週時程の組み方等に様々な工夫を行っています。県では、各校の工夫が県内で共有化され、学級及び教室経営に活用してもらえよう、情報を発信していきたいと考えています。

三 支援体制の整備について

今後、特別な教育的ニーズのある児童生徒に対して、適切な支援を継続的に行っていくためには、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成・活用が重要となります。特に、個別の教育支援計画については、地域の関係機関との効果的な連携が行われる計画とすることが大切です。県では、これらの計画の作成・活用が促進されるよう、手引きを作成し、各校に配付する予定です。

また、現在県内の小中学校七校をモデル校として、通常の学級の特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する効果的な支援や校内の支援体制について検討・検証を行っています。この取組の成果も、お伝えする予定です。

四 心のバリアフリーについて

東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を機に、共生社会実現に向けて、関係閣僚会議で「ユニバーサルデザイン二〇二〇行動計画」が策定されています。そのうち心のバリアフリーに向けては、交流及び共同学習の活性化を目指すことが示されています。県内では、共に取り組める活動として、障害者スポーツの実践がみられるなど、今後さらに様々な取組が期待されている所です。

最後に、今後貴会がますます充実することを祈念いたしますとともに、県の特別支援教育が一層発展していきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年度 県特支研 役員

※敬称略

会 長	江口 滋 (鏡淵小)		
副 会 長	新崎 俊博 (南本町小)	小林 徹哉 (裏館小)	中川 一之 (新潟市立東特別支援)
理 事	①松永 哲郎 (新井中央小)	②加藤佐知子 (大洲小)	③中田 仁司 (千手小)
	④堀江 哲 (今町小)	⑤鷹巣 大城 (北辰小)	⑥田村 祐一 (新津第五中)
	⑦田邊 裕一 (新津第一小)	⑧川崎 慶治 (竹尾小)	⑨生田 雅之 (女池小)
	⑩村川 孝子 (外ヶ輪小)	⑪小山 和浩 (山辺里小)	⑫有本 秀雄 (五泉小)
	⑬渡邊 正人 (真野中)	⑭小玉 義明 (県立はまなす特別支援)	
	⑮上村 武 (見附市立見附特別支援)	⑯猪股 昭博 (新潟市立西特別支援)	
会計監査	山本 修 (糸魚川小)	櫻井 真理 (新町小)	佐藤 元彦 (水原小)

平成30年度 県特支研 評議員

※敬称略

上 越	栗岡 秀明 (飯小) 齋藤 俊明 (牧中)	柏崎・刈羽	神林 均 (半田小) 山本 睦子 (西山中)
糸 魚 川	田村 雅人 (大和川小)	妙 高	加藤 晃 (斐太北小)
長 岡 ・ 三 島	中林 郁郎 (栖吉小) 阿部 尚之 (大島中)	三 条	上村 満 (長沢小) 中村 義則 (第一中)
燕 ・ 弥 彦	小畑一二美 (燕西小)	加 茂 ・ 南 蒲	平野 政幸 (葵中)
見 附	伊藤 純子 (名木野小)	小 千 谷	西山 正樹 (小千谷市立総合支援)
十日町・中魚	桜井 明 (川治小)	魚 沼	川池 雅樹 (広神西小)
南 魚 沼	野村 宏毅 (湯沢中)	新 発 田	石栗 美子 (菅谷小)
北 蒲	佐藤 紹夫 (蓮野小)	胎 内	佐藤 新一 (きのと小)
村上・岩船	村山 敬介 (関川中)	五 泉	辻川 英夫 (五泉北中)
阿 賀 野	佐藤 寿樹 (笹岡小)	東 蒲	武藤 常男 (津川小)
佐 渡	杉坂 芳文 (加茂小)	新潟・北 区	戸川 美子 (早通南小)
新潟・東 区	長沼 智之 (木戸小)	新潟・江南 区	青木 清美 (曾野木小)
新潟・江南 区	塩田 信明 (曾野木中)	新潟・秋葉 区	藤井 正人 (矢代田小)
新潟・南 区	中林 浩子 (白南中)	新潟・南 区	八島 利憲 (小林小)
新潟・西 区	市橋 佳代 (真砂小)	新潟・西 区	伊藤 正弘 (立仏小)
新潟・西蒲 区	吉田富貴子 (鎧郷小)	視 覚 障 害	石畑 健一 (県立新潟盲)
聴 覚 障 害	小川 司 (県立長岡聾)	病 弱	内山 徹 (県立柏崎特別支援)
肢体不自由	奈良岡 裕 (県立上越特別支援)	知 的 障 害	関原 一成 (新大附属特別支援)

県特支研のホームページをご覧ください

県特支研の役員、事業、会報などの情報や特別支援学校へのリンクはこちらから

地区大会・研究部の情報や個人・団体の実践はこちらから

新潟県特別支援教育研究会のホームページには、平成30年度の活動が載せられています。ご意見等がありましたら、県特支研事務局へメールでお寄せください。



平成30年度 研究大会の紹介

全国特別支援教育研究連盟関連

詳しくは全特連HPをご覧ください。[<https://manavia.net/community/16>]**第52回全特連関東甲信越地区特別支援教育研究協議会 群馬大会**

テーマ 「一人一人の力を大切に、社会につなげる特別支援教育を目指して」

8月6日(月) 昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館) 群馬県立盲学校 他

第5分科会 「自閉症スペクトラム児童生徒への支援」

提案者 三条市立裏館小学校 樋熊 則子 教諭

司会者 三条市立裏館小学校 倉上 美津枝 教諭

第17分科会 「保護者、地域との連携」

提案者 長岡市立高等総合支援学校 高桑 裕子 教諭

司会者 長岡市立総合支援学校 岩坂 友美 教諭

新潟県特別支援教育研究会関連

各研究部の研修会予定

- 知的障害部 7月31日(火)
会場：新潟市江南区文化会館
講演：「読み書きにのたまずきから
考える子どもの実態把握と
学び支援」
講師：早稲田大学大学院教育学研究科
教授 高橋あつ子 様
- 自閉症・情緒障害部 8月9日(木)
会場：長岡リリックホールシアター
講演：「これからの社会を
生き抜く力を育てる
～小中学校での自立に向けた
指導や支援～」
講師：教育ジャーナリスト・編集者
品川 裕香 様
- 言語・難聴部 7月25日(水)
会場：長岡市立中央図書館
講演：「読みのつまずきの
早期発見・早期支援をめざした
多層指導モデルMIM
～学びを楽しみ、学びから自信を得る～」
講師：国立特別支援教育総合研究所研究企画部
主任研究員 海津亜希子 様

地区大会の予定

- 上越南部大会 8月10日(金)
会場 妙高市文化ホール 新井ふれあい会館
新井総合コミュニティセンター 他
大会主題 「共生社会の実現を目指した切れ目ない
一貫した指導・支援の在り方」
講師 宮城学院女子大学
教授 梅田 真理 様
- 中越長岡大会 11月28日(水)
会場 みしま体育館
大会主題 「一人一人のニーズに応じた
特別支援教育の展開」
講師 新潟大学教職大学院
教授 古田島恵津子 様
- 下越新潟市大会 11月21日(水)
会場 新潟市江南区文化会館
大会主題 「多様な学びの場で、共に学ぶ
特別支援教育の充実を目指して」
内容 6分科会で提案者を1名として
十分な協議時間を確保
新潟県・新潟市主導主事からの指導

県特支研だよりNo.「117号」をお届けいたします。ご多用の中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。

(事務局)